








市民参画・協働の取組事例

よりよい市民参画・協働を目指す上では、新たな試みを含めた試行錯誤の繰り返しが必要であるという視点に基づき、事例を積み重ね、共有していきます。

取組名	打出教育文化センターと打出公園の一体的実施	
取組内容	打出教育文化センターの役割や、地域の歴史を学んで、地域の魅力を高めるために、何が必要なのか、設備や使い方について意見を出し合い、実現につなげた。今後のあらゆる世代にとっての居場所として、利用できるようにする。	
	<p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打出教育文化センターの役割を、理解いただいた上で、一体的実施について、意見が出たこと。 ・打出公園と日本庭園の使い方やマナーについて、意見交換ができたこと。 ・武庫川女子大学との連携で、学生ならではの発想力を活かした提案をいただいたこと。 	
	<p>学んだ点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開館日・開館時間を見直したことにより、実際に、幅広い利用者層に、より多く利用されるようになったこと。 ・予算の関係で、できることできないことを理解いただいて、色々な提案をいただけること。 ・イベントを開催できる市民力が、地域の賑わいに繋がること。 	

取組名	公共空間を活用した賑わい創出事業	
取組内容	地域住民や事業者、学生、行政など、多様な主体が参画するエリアプラットフォームを構築し、まちの未来ビジョンの策定を進める。	
	<p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会だけでなく、事業者や学生、取組に関心のある方も参画し、気軽に話し合いができていること。 ・普段は自由に使えない道路空間を活用することで、非日常感を演出できたこと。 ・子供のやりたいことを大人が手伝いながら社会実験をすることで、様々な年代の交流が生まれていること。 	
	<p>学んだ点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立場が違っても意見・考え方も異なるが、お互いにしっかりと話を聞くことで共感し合い、1つの方向にまとまることができたこと。 ・子どもが中心になることで、みんなが笑顔で楽しく取り組むことができたこと。 ・普段から多くの情報を発信することで、取組への共感及び応援も聞くようになったこと。 	

取組名	こえる場！	
取組内容	地域活動を行っている企業・団体等と芦屋市がつながったり、企業・団体間同士でつながることで、それぞれの持つ強みや資源を活かしながら、地域の可能性を発見したり、地域の課題解決等に取り組み、より暮らしやすいまちの実現を目指す。	
  	<p>形：芦屋のAと六甲山、笑顔の口やつながり、ひろがりやが連鎖する様子をイメージ 色：芦屋の海・山、芦屋愛、未来と多様な主体の参画をイメージ</p>	<p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で対面での活動が制限される中、効果的な運営体制の整備や情報発信、オンラインの活用など、可能な範囲での活動を検討・実施し、つながりつづけることができたこと。 ・令和5年度に、約4年ぶりの参集型交流会を実施した際には多くの企業・団体等の参加があり、話が終わらないほどの盛り上がりを見せ、活力を感じると共に協働による可能性の広がりを感じたこと。 <p>学んだ点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働のプラットフォームとして、行政とのつながりだけではなく、参画企業・団体間の協働促進にもつなげていく必要があること。 ・多様な主体が持つ社会資源やノウハウ・アイデア等を活用し分野を超えて連携・協働することで、より暮らしやすいまちの実現へつなげていくこと。

取組名	みんなのつどい場	
取組内容	芦屋に住んでいる人、働いている人、学んでいる人、活動している人、芦屋に関わっている人たちが集まり、自分のことを語る、日常を語る、だれかとつながる、みんなの話を聞く、みんなでワイワイできる居場所づくりを目的とする。	
		<p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々な立場の人が集い、様々な観点から意見を出し合える場となっていること。 ・スペシャル版として「ソーシャルグッドなつどい場」、派生した取組として「インターナショナルデー」、市内他施設での「テーマ別のつどい場」につながるなど、広がりもてる取り組みとなっていること。 <p>学んだ点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に話ができる場に、聞くだけでも参加したいと思える空間ができること。 ・色々な立場の人どうしても、別の事業を一緒に立ち上げることができたこと。 ・事業の広がりを見せているものの、単発に終わってしまうことが多く、継続的に実施できるような支援が必要であること。

市民参画・協働の形態（例示）

市民と行政の協働に当たっては、様々な形態が考えられます。事業の目的、内容やパートナーに応じて、効果的な形態を選択することが重要です。

共催、実行委員会、協議会

共催は、地域団体と企業・行政が実施主体となって、協力して事業を行う形態です。実行委員会・協議会等は、市民・地域団体・企業・行政で構成された組織が実施主体となって事業を行う形態です。

効果・特徴

対等な関係で進めやすく、役割・責任分担を明確にして事業を実施できる。
多くのノウハウを活かすことができ、効果的な取組がすすめられる。

具体的事例

- ・各種実行委員会
- ・各種協議会
- ・企業、協会等と共催した事業の実施（セミナー、イベント等） 等

後援

市民や地域団体が実施する事業の趣旨に賛同して、事業に資金や物品以外の資源を提供するなどの支援をする形態です。

効果・特徴

事業に対する理解、関心や社会的信用が高まり、さらなる事業効果を生み出すことが期待できる。

具体的事例

- ・市・教育委員会への後援名義申請 等

事業協力・協定

協働の主体同士の合意のもとに、双方が持つ人材・情報・ノウハウを提供し合い、協力して事業を行う形態です。

効果・特徴

お互いの対等な関係の中で、各種主体それぞれが得意なことを持ち寄り、特性や能力を生かした事業が展開できる。

具体的事例

- ・地域フィールドラボ
- ・企業、大学との連携事業
- ・市民参加型の情報発信 等

※地域フィールドラボとは・・・

IT企業の社員が、期間限定で自治体職員になり、ITによる課題解決策の検討や事業提案等を行う研修制度のことをいいます。

補助・助成

市民や地域団体が取り組む公益的な活動に対して、財政的な支援を行う形態です。

効果・特徴

市民活動の自主性・自立性が尊重される。
双方に負担の少ない取組で、即効性の高い効果を生み出すことができる。

具体的事例

- ・市民提案型事業補助金
- ・社会教育関係団体公募提案型事業補助金等

企画立案への参画

行政が事業を企画立案する段階で、市民や団体等から意見や提案を受けることにより、多様な意見、提案を政策・事業に反映させる形態です。

効果・特徴

柔軟な発想を取り込むことができ、多様なニーズによりの確に対応することができる。
市民の市政への参画意識の醸成につながる。

具体的事例

- ・審議会等（市民公募委員）
- ・パブリックコメント等

情報共有・意見交換

地域団体と企業・行政の双方が持っている情報を積極的に共有して、意見を出しあう形態です。

効果・特徴

双方が持っている専門的な情報を得られ、地域の課題や市民の考えを的確に把握できる。

具体的事例

- ・オープンデータの提供
- ・市民ワークショップ等

広聴

行政が住民ニーズを把握する際に、様々な情報媒体を活用して住民の意見を聴く形態です。

効果・特徴

市民の意見を的確に把握し、市政への反映を図ることができる。

具体的事例

- ・参加型まちの維持管理（LINE 通報システム）
- ・市政モニター
- ・市民の声（お困りです課への投稿）等

公共施設等の提供

会議室等の貸し出し等活動の場の利用等について配慮する形態です。

効果・特徴

提供を受ける団体は、安定した事業運営を行うことができる。

具体的事例

- 各種登録団体の使用料減免制度
等

委託・指定管理

委託は、行政が責任を持って担う事業を市民の特性を生かして、より効果的に行うことを目的とした形態です。指定管理は、市民の特性を活かして、公共施設の管理・運営を担う形態です。

効果・特徴

行政にはない専門性や先駆的な手法を活用することで、市民ニーズに対応したサービスが提供可能となる。

具体的事例

- 公共施設の指定管理者制度を活用した
指定管理事業
等

計画の進行管理

計画の推進にあたっては、市民参画協働推進会議が中心となり、市民参画・協働事業の方向性やプロセスについて検討し、手法や活動促進体制を充実させることで着実に施策を進めるとともに、新たな考え方、取組、手法を取り入れることで、本計画を進化させ、より一層の推進を図ります。

また、各施策、取組の企画立案（Plan）、実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）のあらゆる段階（PDCAの各プロセス）において、市民参画・協働の場や機会を適用できないか検討します。

さらに、PDCAサイクルを通じて市職員が各現場で市民参画・協働を展開する際に、これまで市で実施した取組で培った成功例や失敗例を共有し、ノウハウを最大限活用するとともに、職員自ら個々の現場に応じた仕組みをデザインすることができるよう、市民参画・協働についての理解促進や資質向上に取り組めます。

